

オーディオ分野の素子としては、既に完成の域に達しているという見方が大勢を占めている真空管。だからこそ、素子の進歩に気をとられることなく、回路技術の追求に専念できるというわけです。ラックスでは、このような背景のもとに真空管式コントロールアンプがいかにあるべきかを改めて問い直し、新しいコンパクト・タイプのCL32を造り上げたわけですが、自作愛好家のために、このアンプをそっくりそのままキット化したラックスキットブランドのA3032を発売することにいたしました。

管球式コントロールアンプ・キットA3032は、音質追求のためにその裏付けとなる性能の追求を徹底的に行っています。回路構成の面では、考えられるかぎりの方式をすべて検討したうえで、イコライザー一部には、低歪率特性、高耐入力特性、高SN比などが得られるSRPP(シャントレギュレーテッド・プッシュプル)出力回路を取り入れた3段K-K・NF回路(出力段から初段のカソードへ帰還をかける方式)を採用しています。フラットアンプ部には、2段P-K・NF回路(2段目のカソードから初段のプレートへ帰還をかける方式)を採用していますが、メジャーNFをかける前の裸特性を改善するためにP-P間(プレート・プレート間)に局部帰還をかけています。とくに実用レベルでのSN比の改善を図るために4連型の音量ボリュームを採用し、また、アクティブな素子を増やさずにそれでいて可聴周波数帯域への影響を最小限に押え、5Hz~10Hzの超低域だけを効果的にカットする新型フィルターを採用しています。もちろん、出力段には、最適なカソードフォロア回路を採用しているのはいうまでもありません。



機構的な面では、長期にわたり性能劣化のない安定性と高域まですんなり伸びた周波数特性、高SN比を確保するため、合理的なシャーシー構造をとり、信号経路のシールド線をほとんど排除し、入力回路も最短コースで配線し、回路はプリント基板化するなどしています。

これらのほか、カットコア使用の電源トランスでリケージフラックスを押え、ヒーター電源には定電圧回路による直流点火を採用してパルス性ノイズの混入を防ぎ、真空管そのものも左右分離(出力段のカソードフォロアは除く)して使い、すぐれたクロストーク特性を実現するなどしています。

なお、ラックスキット製品には共通して、イラストや写真をふんだんに取り入れたわかりやすいアッセンブリーマニュアルが付いていますので、初めて組まれる方でも確実に仕上げる事ができます。(オプションパーツとして、回路が安定動作をするまで出力回路を切り離すミュート回路キットOP3032:¥2,500が用意されています。)

(A3032 SPECIFICATION)

使用真空管 12AX7/ECC83(5), 12AU7/ECC82(2)
 出力電圧 定格2V 最大15V(歪率0.3%以下)
 出カインピーダンス pre-out; 600Ω rec-out; 560Ω
 全高調波歪率 0.03%以下(出力2V, 20Hz~15KHz)
 入力感度 (出力1V) phono-1~2; 2mV aux-1; 160mV
 tuner-aux-2; 160mV~5V
 入力インピーダンス phono-1; 30KΩ~50KΩ~100KΩ
 phono-2; 50KΩ aux-1; 200KΩ
 tuner-aux-2; 100KΩ
 S N 比 phono-1~2; 80dB以上
 (入力ノイズ, 1HF-) tuner; 95dB以上
 (Aネットワーク補正) aux-1~2; 95dB以上

許容入力電圧 560mV以上(phono, 1KHz, RMS)
 R I A A 偏差 ±0.5dB以内(30Hz~15KHz)
 クロストーク -65dB以下
 付属装置 リニアイコライザー, 超低域用フィルター, テープモニター-2系統, テープダビング, PHONO-1用入力インピーダンス調整, TUNER-AUX-2用入力レベルセット, アッテネーター, アウトプットセレクター ほか
 消費電力 40W
 電源 AC100V(50Hz/60Hz)
 外形寸法 438(幅)×77(高)×322(奥行)mm
 重量 5.7kg

管球式コントロールアンプ・キット A3032



LUXKIT